

神奈川県大会における競技・審判取り扱いについて

神奈川県小学生バレーボール連盟 競技委員会
審判委員会

【競 技】

◇試合前の合同練習について

- ・コートを使用しての合同練習は、次の試合にあたっているチームを優先する。
- ・隣のコートで試合をしている場合は、試合中のコートにボールが入らないよう配慮して練習をする。(練習内容の工夫・球拾いを2人以上付ける等)ただし、隣の試合に支障をきたすと競技・審判委員会が判断した場合は、練習を制限することもある。
- ・登録された選手・スタッフ以外は、競技フロアに降りることができない。(全国・関東大会に準じる)
- ・ボールを使っての練習は構わないが、ネットを使っての練習は禁止とする。また、ネットの延長線上を利用した練習(相手ベンチ前から自チームのベンチ前にボール出しをする)も禁止とする。
- ・コート横や後ろにある防球ネットや壁に向かってのアタック、サーブ練習は禁止とする。

◇公式プロトコール中の練習について

- ・公式練習は、両チームの合意があれば合同で6分間のコート練習が可能である。
- ・どちらか一方のチームが別々に行いたいと申し出た場合、練習は別々で行われる。
- ・別々に行う場合、サーブ権がある側のチームが先にコートを使用しての練習になる。
- ・練習はコートを使用しているチームに優先権がある。優先権のないチームは、フリーゾーン内の空いている場所で練習をする。

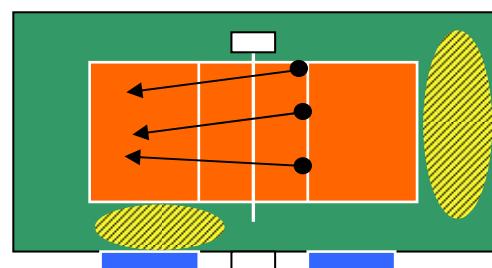
☆練習場所例☆

①優先権のあるチームがアタック練習や、フォーメーション練習をしているとき。

⇒相手コート後方(サービスゾーン)で練習可能。

②優先権のあるチームがサーブ練習をしているとき。

⇒自チームのベンチ前および、反対側のサイドライン横で練習可能。



※体育館によっては、フリーゾーンが十分に確保できない場合が多くある(学校の体育館等)。その場合は、優先権のあるチームの邪魔にならないよう、十分に配慮して練習をすること。

◇試合中

- ・監督は記録席に一番近い席に座る。
- ・ベンチには、不要な物(マスコット人形等)を持ち込むことは禁止とする。また、携帯電話や無線機の持ち込みは禁止とする。ただし、携帯電話については緊急時等のやむを得ない場合の使用は許可する。
- ・飲料水*、タオル、救急用具以外のものは持ちこめない。

*飲料水は専用ボトルのみ許可する。(ストローの付いたものや、蓋のできる吸い口のある容器であること。)ペットボトルは不可。

- ・ボールカゴや飲み物等は、フリーゾーンに置くようとする。(隣のコートの試合の邪魔にならないようとする)
- ・監督・コーチ・マネージャーは必ず襟付きのシャツとスラックスを着用すること。
(半ズボン・Tシャツは不可。また、同じ色彩であること。スーツ・ネクタイ着用は可とする。
ただし、原則としてジャケットは着用していなければならない)
- ・監督はボールデッドの間、立ち上がって指示をすることができる。
- ・監督はラリーに勝ったとき、ガッツポーズで一瞬立ち上ることは構わないが、パフォーマンスをすることはできない。
- ・ベンチにいる者が、他の観衆から見て不快になるような態度をとった場合は、警告の対象になる場合がある。【ふんぞり返る、横や後ろを向く、首にタオルを巻く、シャツを出す、脚を組む、アメ・ガム等の飲食、パイポ等】
- ・タイムアウト時にはボールを使っての練習はできないが、コート後方のフリーゾーンを利用してのアップは構わない。
- ・セット間にフリーゾーン内でボールを使ってのウォームアップは可能である。ただし、隣のコートにボールが入らないようやり方を工夫する。(状況によっては制限することもあるので、審判の指示に従う。)

◇試合終了後

- ・両チームの選手はネット近くまで行き握手をする。監督とキャプテンは審判と握手をする。
- ・選手による相手ベンチへの挨拶は禁止とする。次の試合のため、速やかにベンチを空けること。
キャプテンは記録用紙にサインをする。

◇選手のユニフォーム（ナンバー）

- ・選手のユニフォームのナンバーは明確に判別できるように、ジャージの色と対照的な色とする。
大きさについてもルールブックを確認すること。
☆明確に判別することができない例☆
ユニフォームとナンバーの色が同系色で、数字に別な色でフチ取りをしているもの。
ユニフォームを新調する際には十分に留意すること。

◇その他（応援団）

- ・応援はコートで試合をしているチームが優先となる。幟や横断幕も当該チームが優先的に掲示できる。(自チームの試合終了後は速やかに幟を倒すこと)
- ・鳴り物を使っての応援は禁止とする。メガホンは、声を大きくするために使用することは構わないが、鳴り物としての使用は禁止とする。(フェンス等を叩いて音を出す行為)
- ・サーブ許可の吹笛前や、ラリー中は、審判の笛の音が聞こえるよう、応援をやめること。

【審 判】

◇試合開始前

- ・主審・副審は両チームのベンチスタッフに「全国小学生バレーボール指導者講習会受講者証明書」または「日本体育協会認定の指導員・上級指導員・コーチ・上級コーチの資格者証明書」の提示を求め、受講者が1名以上いることを確認するとともに、写真で本人の確認をする。記録用紙の備考欄には記載をしない。
※試合中は、証明書を胸に提げていなければならない。
- ・試合前の練習は、隣のコートが試合中の場合は、ネットを使わずに、自分側のコートやフリー ゾーンで十分にボールがコントロールされていれば認めてよい。そうでない場合はチームをコントロールする。
- ・隣のコートが試合をしていない場合は、両チームの話し合いにより、自由に練習してよい。ただしの場合も、隣コートに頻繁にボールが行くような場合はコントロールする。

◇試合中

- ・セット開始時において、副審はスターディングメンバーを、アタックラインの中央からエンド ラインに向かって垂直に、副審の方を向かせてサービス順に整列させる。副審と記録員はそれぞれスターディングメンバーとサービス順の確認を行う。
- ・主審は、ロングサーブ（サーブ順の間違い）を出さないために、サービスの際は毎回記録員とコンタクトをとること。その際副審は、主審と記録員とのコンタクトの邪魔にならないように位置する。
※記録員がうなずいて確認をとることとする。
- ・サービス順の間違いの可能性がある場合は、記録員（ならびに副審・主審）はゲームを止めて確認をし、正しく直してやり直させること。ただし、ゲームが止められずサービスを行ってしまった場合は、通常の取扱となるので、十分注意すること。
- ・サービス順が正しいかどうかをゲームキャプテンに聞かれた場合は、正しいサーブ順を教える。
同様の質問は監督からであっても認めてよい。
※正しいサーバーをキャプテンが聞いてきたときは、サービスの順番を教えることとする。
- ・すべてのボールへの接触に対し、それが同一動作中であれば、2ヶ所以上に接触したとしても、ダブルコンタクトの反則は適用しない。
- ・キャッチボールは反則である。
- ・サービスの際にコートから出ていること以外、ポジショナル・フォールトの反則はない。
※フリー ポジション制
- ・ディレイイン・サービス（8秒ルール）については、あまりシビアにならず、明らかに8秒を超過していると思われる場合に反則とすること。
- ・大きな選手による相手のアタックヒット完了前の押さえ込み（オーバーネット）や、相手チー ムに対して自チームの競技者やサービスのコースを隠すスクリーンの反則に留意すること。
※スクリーンが形成されたときは、まずチームのゲームキャプテンを呼び、指導をする。
→その後繰り返し行った場合に反則の適用となる。
- ・サブスティチューション（選手交代）は、12回まで行える。
- ・副審は、主審がゲームキャプテンを呼んだときは必ず主審のところへ行く。
※必要に応じて主審が話した内容を当該チームのベンチスタッフ（大人）に伝える。
- ・罰則に対する制裁は3段階の手順を踏む。

- ①両チームのキャプテンを呼び、当該チームへ口頭注意→②当該チームへの警告→
 - ③当該チームへの反則（カードの適用）とする。
- ただし、制裁の対象が大人の場合は、一般と同様に取り扱う。
- ・試合中の暴力行為については、それが軽微なものであっても即刻失格とし、本部に連絡すること。
- ※試合中でなくとも、同様または類する行為については、本部に連絡すること。

◇その他

- ・ラインジャッジは、セット間は、原則的に座って休ませる。（エンドライン後方またはサイドライン後方の指定の場所で）必要に応じて、水分補給もさせること。
- ・得点掲示板のチーム名の表示は、セットごとにチーム名の位置を交換することが慣例になってるので、そのままで構わない。（全国大会ではセットが変わっても入れ替えない）
- ・試合終了後は、握手をしたら直ちにベンチをあけさせるようにする。相手ベンチへの挨拶はさせない。
- ・うちわの持ち込みは可（標準サイズ）。
- ・セット間の、他チームによるコートを使っての練習は、原則的に認めない。（大会規定による）
- ・「全国小学生バレーボール指導者講習会」の未受講者にも、今年度中に受講することを条件として仮受講証を発行しているので、提示させる。

◇審判員について

- ・神奈川県小学生バレーボール連盟では、神奈川県大会において、協力審判員制度をとっている。本連盟が主催、共催、または主管する県大会に出場しようとするチームは、神奈川県小学生バレーボール連盟主催の審判研修会（年2回開催）を受講している審判員を1名以上随行すること。
- ・各チームの協力審判員の服装は、日本協会公認の審判服を着用することが望ましい。（下は紺か黒のスラックス。または、それに類するものでも可。）審判服を着用できない場合も、審判資格保有者は必ずワッペンを着用する。
- ・審判員としての活動があった場合は、審判委員長に活動報告書を提出すること。

◇試合運営に関する取り扱いについて

- ・次の試合の審判員は、前の試合終了前にコートそばにいるようにし、次にコートに入ろうとするチームをコントロールする。（試合直後の両チームがベンチを空けてから許可する）
- ・終了した試合の審判員は、敗者チームから審判員と補助員を出す場合がほとんどなので、その旨を当該（敗者）チームに伝え、協力を依頼すること。その際、5分程度でプロトコールが開始されることもあわせて伝えること。（違う場合もあるので、よく割り当てを確認すること）

※以上の取り扱いは、あくまでも神奈川県小学生バレーボール大会でのことなので、全国大会や関東大会、また他都道府県の大会においてはその限りではない。